

東海大學 函

機關地址：臺中市西屯區臺灣大道四段1727號

聯絡人：呂佩芬

聯絡電話：04-23590121#31701

電子郵件：lpfen@thu.edu.tw

傳 真：04-23590361

受文者：國立暨南國際大學

發文日期：中華民國106年3月30日

發文字號：東茂文字第10603007290號

速別：普通件

密等及解密條件或保密期限：

附件：2018年研討會徵稿日文版、2018年研討會徵稿中文版、2018論文發表報名表

主旨：檢送本校日本語言文化學系「2018年國際學術研討會」徵稿啟事(訊息)及申請表，敬請貴校惠予協助公告並鼓勵所屬師生踴躍賜稿為禱。

說明：

一、研討會主題：「協?、實踐、多元學習—語言與社會文化的交錯」。

二、徵稿相關說明：

1.徵稿子題：「語言科目中的社會、文化」、「日文系中的社會、文化科目需追求什麼樣的課程目標」、「接軌現實社會與人群的教學實踐」。

2.本研討會為論文摘要審稿，論文摘要經審查通過後，需繳交論文全文。

3.徵文摘要繳交截止日期：106年4月26日（星期三）

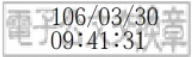
4.研討會舉辦日期：107年1月20日（星期六）。

5.舉辦地點：本校茂榜廳。



三、相關訊息請至研討會網頁查詢：<https://goo.gl/Mlu4LY>

正本：公私立大專校院

副本：

裝

訂

線



機關影像檔公文

2018 年 東海大學日本語言文化學系國際學術研討會

徵稿要領

一、主題：「協働、實踐、多元學習－語言與社會文化的交錯」

二、會議主旨

語言行動乃社會行為、人與人相互間最重要的傳達／媒介的手段之一。如果說語言行為是建立在說話者與聽話者相互的社會、文化經驗之上的話，那麼在進行溝通交流時對彼此的社會、文化背景的理解，就是順利推動溝通的關鍵。若我們可以將溝通視為是一種彼此相互磨合其差異性的過程，那麼在語言學習中融入社會文化元素即是不可或缺的。問題是，我們該如何去實現這樣的語言學習？

致力於培育身處多元文化社會人才的台灣高等教育語言教育機構的本系，極早便透過互助互動、實踐、多元學習等多樣性的方法，嘗試各種將社會文化融入語言學習的可能性，並歷經多次的課程內容改革實踐至今。鑒於再次確認語言學習與社會、文化有不可或缺之聯結，如何做得更好是我們需要跨出的下一步。本國際學術研討會的舉辦目的，希望在基於此共識下，邀請國內外活躍於各個領域的專家學者來分享其研究成果，為語言教育共同開拓新的視野。

本研討會構成如下

- (一) 專題演講
- (二) 學術研究發表、圓桌會議
- (三) 海報發表

本研討會招募以下三類別的研究發表

(1) 「語言科目中的社會、文化」

外語教學雖然有各該語言之結構上的部分需要釐清，但只要想讓學習者利用這個語言與人進行對話或溝通，就絕對需要涉及該語言及學習者自身原語言中的社會與文化之理念與知識。如何使學生在學習語言時，從其內容認知並反思到不同語言中所蘊含之社會文化的異同，也在認知到異同之後，能依自己的判斷選擇自己所認同的價值觀為何？是每位外語教師日日苦心思慮之處，本類別即在討論

- ① 教師們如何在教授語言結構的同時導入該語言的社會文化相關思考模式與知識。
- ② 如何引導學生重新審視反思自我的社會文化價值觀，並在兩相對照的情形下進行思辨與討論。
- ③ 其他相關教學方式等議題。

(2) 「日文系中的社會、文化科目需追求什麼樣的課程目標」

多數的日文系中都設有教導日本社會、文化的內容課程。但是這些內容科目比起其他語言科目多被視為附屬性課程。但，人會透過其一生參與多樣的社會、文化，形成自我人格後並付諸行動實現自我。因此，學習者在獲得社會、文化的知識後，思考、批判、行動等一連串的行為即可構成高等教育教學實踐的根源。本類別期許與學者們從實踐經驗來討論內容科目學習的重要性。

本類別的議題著重在

- ① 如何從複雜多樣的社會、文化現象中選擇其內容，如何提示，讓學習者思考什麼。
 - ② 並且如何與扎根在傳統權威下的固定性被動性文化理解，國家國民、世代、性別等即存的分類與區別方式相對峙
 - ③ 如何在內容科目上呈現教師與學習者的專業與研究關心
 - ④ 如何與從事社會、文化的實踐運動者交流與協働
- 等觀點。從上述的問題意識出發，透過教學實踐的介紹，其中所得到的成果、困難及問題點、提案等的共有，期望能夠展開廣泛的議論。

(3)「接軌現實社會與人群的教學實踐」

現今社會已不為既有知識或教科書就能讓問題解決的社會。社會中存在著看不見的權力構造且出現地球規模等級的問題。情報化社會雖然帶來了便利性，但已習慣於假想世界的學生們如何在情報的洪水中擷取什麼樣的資訊，如何體驗與現實社會協働，並讓學生學習做出正確的判斷力等，都成為教育的課題。今日的大學多要求教師利用多元化學習方式培育學生主體性判斷能力。且教師不能僅止於在教室中傳授知識，亦需考慮學習環境的設計，並且與活躍於其他專業領域或社會的人事共同合作構築一個新的網絡。

本類別發表著重在

- ① 與他領域的人或社會接軌的教學實踐中能夠產生什麼樣的學習空間
- ② 透過這樣的實踐學生能夠體驗到什麼、學到什麼
- ③ 實踐企劃的執行又存在著什麼樣的課題，如何尋求改善等議題，期望能夠開啟一個新的可能性。

三、主辦單位：東海大學日本語言文化學系

四、會 場：東海大學茂榜廳

五、會議日期：2018 年 1 月 20 日（六）

六、發表方式

- ◆ 使用語言：日文
- ◆ 發表時間：一人 30 分鐘（口頭發表 20 分鐘，疑問對答 10 分鐘）
- ◆ 發表報名方式：E-mail

請填好「發表報名資料」，並電郵至此電子信箱：japan@thu.edu.tw。（信件標題請標示：2018 年国際シンポ要旨）＜由我方送出確認信函後即完成報名程序＞

- ◆ 報名期限：2017 年 4 月 26 日（三）當日郵件
- ◆ 摘要審查結果：2017 年 5 月 31 日（三）前電子郵件通知
- ◆ 論文原稿截止日期：2017 年 11 月 30 日（四）前，請將論文原稿檔案（Word 檔與 PDF 檔）寄至此電子信箱：japan@thu.edu.tw。（信件標題請標示：2018 年國際シンポ発表予稿）

七、論文原稿格式請參照以下指示

1. 本文使用語言：限用日文。
2. 論文長度：8~12 頁（包含參考文獻、資料及圖表等）
3. 頁面規格：A4，橫寫。一頁 30 字×40 行。
4. 頁緣距離：上 2.5 公分，下 2.5 公分，左 3 公分，右 3 公分
5. 字型：日文－MS 明朝體，中文－新細明體，英文－Times New Roman
6. 註記：隨頁腳註（請使用 Word 腳註功能）
7. 題目、姓名、所屬等，請依以下順序書寫（字型大小請參閱括號內說明）

論文題目（14 point）

<空一行>

姓名（12 point）

<空一行>

所屬機關與職稱（12 point）

<空一行>

本文、參考文獻（12 point）

（腳註為 10point）

八、事前通知與請託

所提交之發表論文會以會議論文集的方式於會議當日發放。煩請在電郵提送之前做好內容、格式等確認工作。

另，本研討會後雖不再發行會後論文集，但懇請投稿至本系發刊之『多元文化交流』學術刊物。請依據其發表內容論文修正潤稿後提出。

【聯絡方式】

召集人：北川修一

電 話：04-23590121 分機 31701~31703（窗口：呂佩芬）

FAX：04-23590258

住址：台中市西屯區台灣大道四段 1727 號 東海大學日本語言文化學系

E-mail：japan@thu.edu.tw

系 網：http://japan.thu.edu.tw

研究発表者募集要項

一 テーマ：「協働・実践・多元学習—言語と社会文化の交錯」

二 シンポジウムの趣旨

言語行動はまぎれもなく社会的な営為であり、人と人との関わりにおいて、もっとも重要な伝達／媒介手段の一つです。しかし言語行為というものが、常に相互に、話者と聞き手の社会・文化的経験をもとになされるものである以上、そこに作用している社会・文化的背景を理解することなく、コミュニケーション活動を行うことはほとんど不可能です。コミュニケーションを、行為者相互の持つ差異性のぶつかり合う過程だと考えれば、言語学習における社会・文化的アプローチは不可欠なものとなるでしょう。とは言え、いったいそれはどのようにして実現可能なのでしょうか。

多元文化社会を生きる台湾の一高等教育機関で言語教育に携わってきた本学科は、いち早く協働・実践・多元学習などの方法を通してさまざまな可能性を模索し、カリキュラム改革を経ながら多くの試みを重ねてきました。しかし、言語学習と社会・文化との連携が不可欠であることを確認した今、さらなる一步を踏み出すべく、こうした問題意識を共有し、活発に研究を重ねてきた学外の研究者を招き、新たな視点を獲得するために、本シンポジウムを開催することになりました。

本シンポジウムのプログラム構成は以下の通りです。

- (一) 基調講演
- (二) 学術研究発表・ラウンドテーブル
- (三) ポスター発表

尚、学術研究発表では、以下三つのセッションの研究発表を募集いたします。

(1) 「言語科目の中の社会・文化」

外国語教育では言語における構造上の問題を解決しなければなりません、学習者がその言語で人と対話し、あるいはコミュニケーションをする場合、学習者自身の言語と学習言語の持つ社会・文化の考え方や知識などとの関わりを考えることはどうしても避けることができません。如何に学習者に言語の持つ社会・文化的差異に気づかせ、独自の考えや価値判断を持たせるかは、多くの教師の苦心するところです。

本セッションは、

- ① 教師が言語構造について教える際、如何にして該当言語の社会・文化的思考や知識を導入できるか
- ② 如何にして学習者に学習言語と自言語の持つ社会・文化的価値観を比較し、考え、議論させるか
- ③ その他の教学方法など について取り上げます。

(2) 「日文系における社会・文化科目は何を目指すのか」

多くの日文系では社会・文化について考える内容科目が設定されていますが、これら内容科目は言語学習科目と比して副次的な科目と捉えられる傾向も見られます。しかし、人は生涯を通して、多様な社会・文化と関

わりから自己実現・人格形成を行っていくのであり、社会・文化について知識を得、考え評価し、行動するという一連の行為は高等教育の教学実践の根幹を成すといっても過言ではありません。

本セッションでは、

- ① 複雑・多様な社会・文化の事象から何を選びどう提示し何を考えるのか
 - ② 伝統・権威に根ざした固定的・受動的な文化理解や、国民国家・世代・性といった社会・文化の既存の分類・区別のあり方といかに向き合うか
 - ③ 教師・学生の専門性や研究関心を内容科目にいかに関係させるか
 - ④ 社会・文化に関わる実践者たちとの交流・協働をいかに志向するか
- といった観点・問題意識から、教学実践の紹介、得られた成果や困難・問題点の共有、課題や提言等を行い、会場全体で幅広く議論できる場にしたいと考えています。

(3) 現実の社会、人々とつながる教育実践

現代は、既成の知識や教科書で問題解決ができるような社会ではありません。社会には目に見えない力関係が存在し地球規模の問題も多く発生しています。そして情報化社会は迅速な利便性をもたらしましたが、バーチャルな世界に親しむ学生は情報の洪水の中からどのような情報にアクセスし、現実の社会と協働をどう体験し、確かな判断力を身につけていくかが課題になっています。今、大学においては多元的な学習と主体的な判断を養成する教育実践が必要とされています。また、教師は教室で知識を与えるだけではなく、学習環境デザイン、他の専門領域・社会で活動をしている人々との協働を通して新たなネットワークを築いていく役割も求められます。

本セッションは、

- ① 他領域の人々、社会とつながる教育実践で、どのような新たな教育空間が生まれているのか
 - ② こうした実践を通して学生たちはどのような体験をし、どのような学びを得ているのか
 - ③ 実践の企画にはどのような課題があり、どういう改善が求められるのか
- について議論し、今後の新たな可能性を語りあう場にしたいと考えています。

三 主 催：東海大学日本語文化学系

四 会 場：東海大学茂傍廳

五 日 程：2018年1月20日(土)

六 発表申し込み方法

- ◆ 使用言語：日本語
- ◆ 口頭発表時間：一人 30 分（口頭発表 20 分、質疑応答 10 分）
- ◆ 申込方法：E-mail
「発表申し込み用紙」（添付資料一）にご記入のうえ、メールで下記のアドレスまでお送りください。japan@thu.edu.tw（メールのタイトル：2018 年国際シンポ要旨）。＜こちらからの確認メールが届いたら受付完了です。＞
- ◆ 申込み期限：2017 年 4 月 26 日（水）必着
- ◆ 要旨の審査結果：2017 年 5 月 31 日（水）までにメールで通知いたします。
- ◆ 予稿の締め切り：2017 年 11 月 30 日（木）までに電子ファイル（PDF、WORD）で下記のアドレスまでお送りください。japan@thu.edu.tw（メールのタイトル：2018 国際シンポ発表予稿）

七 予稿の書式及び提出方法は、下記をご参照ください。

1. 本文の使用言語：日本語に限る。
2. 論文の長さ：8～12 頁（参考文献・資料・図表などを含む）
3. ページ規格：A4。横書き。1 頁につき 30 字×40 行。
4. 余白：上 2.5 cm 下 2.5 cm 左 3 cm 右 3 cm
5. 使用フォント：日本語-MS 明朝体、中国語-MS 新細明體、英語- Times New Roman
6. 注記：脚注（MS ワードの脚注機能をご使用ください）。
7. 題目やお名前・所属は、以下の順序で書いてください（フォントの大きさは括弧内を参照）。

論文題目（14ポイント）

〈一行空ける〉

姓名（12ポイント）

所属機関と職称（12ポイント）

〈一行空ける〉

本文・参考文献（12ポイント）

（脚注は10ポイント）

八 お断りとお願い

提出いただいた発表資料の全文は会議論文集としてシンポジウム当日に刊行されます。お手数ですが、ご送付の前にご原稿の内容を十分に確認くださいますよう、お願いいたします。

また、本シンポジウム後、論文集の発行はいたしません。が、発表くださった皆様には本学科機関誌『多元文化交流』へのご投稿をお願いする予定です。その際、ご発表の内容をもとに加筆修正したご原稿をいただけましたら幸いです。

【問い合わせ先】

召 集 人：主任 北川修一

電 話：04-2359-0121 分機 31701～31703（窓口：呂 佩芬）

FAX：04-2359-0258

住 所：40704 台中市西屯區台灣大道四段 1727 號 東海大學日本語文化學系

E-Mail：japan@thu.edu.tw

学 科 H P：<http://japan.thu.edu.tw/>

2018 年東海大学日本語言文化学系国際学術シンポジウム

「協働・実践・多元学習一言語と社会文化の交錯」

論文口頭発表申込書

1. 基本資料	
ふりがな	
*氏名	
*所属・職位	
*国籍	
*連絡先電話(携帯)	
*E-mail	
2. 主要著作	

3. 論文資料	
*テーマ	

*主旨 (<u>800</u>字以内)	
*キーワード (5 個)	
発表セッション	☐ 言語科目の中の社会・文化 ☐ 日文系における社会・文化科目は何を目指すのか ☐ 現実の社会、人々とつながる教育実践 ☐ ポスター発表